

外国人も住みやすい塩竈に ボランティアで日本語教室を開催

皆さん、市内に何人の外国人が暮らしているか知っていますか。平成30年12月末時点で545人の外国人が暮らしていて、そのうち344人が技能実習生として働いています。

その実習生に7年前から、ボランティアで日本語を教えているのが安川一（はじめ）さんです。安川さんは、塩釜国際交流協会に所属し、インドネシア人を対象に月2回程度、日本語教室を開催しています。

安川さんが、日本語教室を開催するきっかけとなったのは、東日本大震災でした。安川さんは退職した後、日本語学校の先生になるための養成講座を受講し、宮城県国際化協会MIAの日本語ボランティアに登録していました。その後、震災の復旧工事に来ていたインドネシア人の男性実習生2人を紹介され、日本語を教えることになりました。そこから口コミが広がり、現在では約20人のインドネシア人実習生に教えています。



▲一つ一つ丁寧に説明する安川一さん(左)

向けた内容でした。参加した実習生から『〜にとって』と『〜によって』の違いはなんですか？など、説明するのに迷ってしまうような質問が飛び交いましたが、安川さんは「検定に受かってくれたらうれしいなあ」と話しながら、一つ一つ丁寧に説明していました。

安川さんは「勉強したいという人がたくさんいますが、全員に教えられない状況です。これから、日本語を教える人が増えるような取り組みをしていきたいと考えています」と話してくれました。

シリーズ 塩竈の魅力再発見⑩

「新しい」を受け入れるまち

「新しい人、新しいもの、新しいことを受け入れられることが塩竈市の魅力です」と話してくれたのは、観光振興ビジョン推進メンバーの大江玲司さんです。大江さんは、塩釜水産物仲卸市場のマイ海鮮丼コーナーの運営などを行っています。

大江さんは「ほかの町でも、地域振興などの事業を行いましたが、地域の人に受け入れてもらえず失敗したことがあります。塩竈市は他者を受け入れる姿勢がありますね」と話します。

「私のような水産業に関係のない人や、東日本大震災での環境の変化などを柔軟に受け入れた結果として『マイ海鮮丼』という取り組みが多くの人に楽しんでもらえているのだと思います」と続けました。



大江さんは「これからも『新しい』を受け入れ、全国からおいしいものが集まる市場にしていきたいですね」と意気込みを話してくれました。

皆さんが発見した塩竈の魅力を、メールにて教えてください。



観光振興ビジョン
推進メンバー
大江玲司さん

問 観光交流課人・まち交流係 ☎364-1165
Eメール kankou@city.shiogama.miyagi.jp



宗旨宗派不問 つどいの地 仙塩丘の上霊園

宮城県塩竈市
向ヶ丘25番9号

塩釜市月見ヶ丘
霊園向い側

永代管理供養墓
～しあわせ～

永代にわたって大切な人に会いに来ることが
できる安らぎと安心の碑。跡継ぎがいなくても
安心のプランとなっております。※詳しくはお問合せください

ペット合同供養墓あり

料金形態	基本料金	ご夫婦お二人様
	永代使用料及び管理料 一式 40万円 (税別)	永代使用料及び管理料 一式 60万円 (税別)

お問合せ ご相談・お見積り無料
生前申し込み承ります

☎022-762-8656

FAX 022-290-6102 ※指定石材店は志賀石材店です 仙塩丘の上霊園 検索

